

# 青山

AOYAMA

梅窓院通信『青山』

発行／梅窓院

編集／青山文化村

発行日／平成14年3月1日

発行人／中島 真成

住所／〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38

電話／03-3404-8447 FAX／03-3404-8107

ホームページ／http://www.baisouin.or.jp/

E-mail／jodo@baisouin.or.jp

題字／浄土門主総本山知恩院門跡  
第八十六世中村康隆猊下

## 梅窓院と 倉常寺

梅窓院第二十五世  
中島真成



新年会で年頭の挨拶をする中島住職。

皆様、お元気でいらつしゃいますでしょうか。平成十四年も、はや三月、春のお彼岸を迎えることとなりました。皆さんのお手元に届く封筒に梅窓院とともに倉常寺の名前が書いてありますが、倉常寺は埼玉の杉戸というところにある浄土宗のお寺です。

先々代の中島真孝住職が倉常寺に入った詳細は、前号の「梅窓院史」の通りですが、農家の三男であった祖父が倉常寺の中島霊真住職に弟子入りしたのがきっかけでした。その後父が受け継ぎ、現在は私が住職を兼ねています。とはいえ、実務は梅田武仁上人に副住職としてお任せしています。

さて、倉常寺は都心の梅窓院と違い、お寺の周りには水田が広がり、伽藍がのどかな田園風景に溶け込んでいます。田んぼの向こうには日光街道が伸びていて、車の便は良いのですが、最寄駅の東武動物公園駅まではおよそ五キロと、少し離れています。

さて、倉常寺の創建は江戸時代初期の承応年間（一六五二〜一六五五年）で、迎誉源珠上人が建立しました。以後、近

隣農家の方たちの念仏道場として今に至っています。

本堂、弁財天堂に茶室、庫裏、そして杉戸町の史跡の六地藏、六観音、九品の阿弥陀如来が参道脇に並んでいます。

この一月から『倉常寺だより』を発行し、檀信徒のみならずとのさらなる交流を図っています。この『青山』との連動も考えています。

梅窓院とは趣の異なる倉常寺、梅窓院の檀信徒の皆様もお近くにお寄りの際はどうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

### 境内散策

#### 歴代人墓所

墓地の中央道を直進し、東屋の少し手前を左に曲がった一角に、梅窓院開基以来、第二十四世までの歴代人の墓碑が並んでいます。

墓誌には開山祖といわれている観智国師から、先代住職までの戒名が刻まれており、時代は約三五〇年前までさかのぼります。

お墓参りの際に、歴代人墓所で梅窓院の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。



静謐な空気に包まれた墓所。

### 行事紹介

第二十五回

#### 念仏と法話の会

三月十四日(木) 午後一時  
法話 長野教区

寛慶寺副住職 水科善隆上人

#### 春彼岸会法要／彼岸寄席

三月二十一日(木)

寄席 午後一時〜仮本堂

法要 午後二時〜仮本堂

落語 入船亭扇好師匠

〔詳細は三面へ〕

#### 文化講演会

プラス思考の生き方

― 氣の活用 ―

講師 岡村隆二氏

四月六日(土) 仮本堂にて

開場 午後一時半

開演 午後二時

〔詳細は八面へ〕

### 文化村通信

#### 花まつり

四月八日はお釈迦さまの誕生を祝う「花まつり」の日。

お釈迦さまは今から約二五〇〇年前、インドのヒマヤラ山脈の麓でシャカ族の王子として生まれました。生まれてすぐ七歩あるき「天上天下唯我独尊」と叫んだ逸話は大変有名です。

この日は毎年梅窓院でも、お花で飾ったお堂にお釈迦様の像をお奉りし、甘茶をかけてお祝いしています。







# 青山梅窓院史

## 《中島真孝師、梅窓院へ》 その七



昭和元年の十二月、アメリカでの留学を終え、中島真孝師が日本に帰って来た。

前号で紹介した明治の名僧、渡邊海旭上人に師事した中島真孝師はアメリカで学んだ経験を生かすべく、翌二年の四月から芝学園に復職、再び教壇に立った。

芝学園は浄土宗の僧侶養成機関として発足した中高一貫教育の学校で、真孝師が入学した当時は、浄土宗大教区宗学教という名前だった。その後、明治三十九年に芝学園となり、真孝師は新生芝学園の

二回生として卒業している。留学から帰った時、師渡邊海旭上人が芝学園の校長に就任していたことも復職の大きな理由であった。

### 真孝師と芝学園

さて、ここで真孝師を偲んで長男中島真哉師が発刊した『麦村翁の思い出』から、真孝師の随筆の一節を引用し、芝学園に対するあつい思いを垣間見てみよう。

芝学園と私—芝学園側面史—と題された冒頭である。

「芝学園卒業生八千余名のうち、私ほど母校との関係が長く、かつ深かった者はあるまいとあえて自負し、また母校からもっとも恩恵を受けた一人として、母校に対してそれだけ深い愛着を持ち、また厚い感謝の念をもっているのがあります。それがそのまま芝学園と私との関係を書いていきますと、それがそのまま芝学園の側面史ともなりますので、皆様の御許しを得てこの稿を書かせていただきたいと思えます。以下略」

これを読めば真孝師の芝学園への思いがどれほどものかが、読者に伝わるに違いない。

芝学園の復職と同時に大正大学の教授職にも就き、その後一時芝学園を退職し、大正大学に専念するも、昭和十七年、太平洋戦争の真っ只中に

芝中学校の校長に就任する。以来、東京都の私学振興協議会や日本私学団体総連合会での要職などを歴任し、昭和二十五年には芝学園の初代理事長に就任するなど、学校教育にその情熱を注ぎ込んでいる。

### 梅窓院の住職に

こうして教育一筋に進み始めた昭和七年六月、真孝師に思わぬ話しが舞い込んで来た。梅窓院の住職就任である。

当時の梅窓院は住職がいない状況で、浄土宗の特命により、中島真孝師がその任にあたることとなったのである。

埼玉の倉常寺には師の霊真師が住職としていたので、倉常寺の心配はいらない。また、芝学園と大正大学という浄土宗と関係の深い学校での実績もある。そして何より、将来性を鑑みて若き真孝師に白羽の矢が立ったのである。

しかし、梅窓院の住職となったその年の十一月には、師父である霊真師が遷化（せんげ・僧侶が亡くなること）し、その任が重くなった。しかも終戦の昭和二十年五月には、梅窓院、芝中学が灰となり、重荷ばかりの戦後を迎えることとなった。

そうした苦難を乗り越えた真孝師の渾名（あだな）は「空気エンマ」、ワンマンで体格が良かったからだという。



大本山増上寺の御忌代理導師を記念して梅窓院で弟子達と撮った一枚。中央が真孝師。右端が長男真哉師。

しかしこの真孝師がいなければ、現在の梅窓院はなく、まさにエンマという名の中興の祖といえる。

戦後間もなくから真孝師は前述したように学校関係に要職をいくつもこなしていく。と同時に浄土宗でも、昭和二十九年に大本山増上寺での御忌導師を務めたり、昭和三十六年にはかつての留学経験からハワイ浄土宗教団の総長に就任している。

こうして寺、学校、宗と三つのフィールドで活躍した中島真孝師だが、次号は師が発行した寺報、『長青』を取り上げよう。



# 仏前に花一輪の心がけ



〔写真右上〕 法要の進行役を務める成田上人  
〔写真左上〕 導師の中島住職  
〔写真左下〕 右端から泉尼僧、嶋田上人  
石上上人、泉上人、加藤上人

梅窓院の一日は僧侶の称える「南無阿弥陀仏」のお念仏で始まります。

浄土宗では朝一番に称えるお念仏が最も重要とされており、当院でも大切なお勤めの一つとなっております。

毎朝のお勤めでは、檀信徒各家先祖代々のご回向をすると共に、皆さまのご健康を祈願しております。ご先祖さまの祥月命日や特別な日等には、お塔婆を建ててご回向しております。

こちらの朝勤行は、お念仏をもっと身近にと、檀信徒の皆さまを始め、一般の方もご参加頂けます。どうぞお越し下さい。

※回向塔婆のご依頼は受付にお申し付け下さい。お電話でも承っております。



季節により花の組み合わせは変わります。

**\* 仏花のご案内 \***

今年から受付に墓参用花束のご用意も始めました。一對一五〇〇円となります。事前にお電話でのお取り置きや、用途予算に合わせた花束も作りできます。どうぞご利用ください。櫛しきみのご用意も引き続きございます。

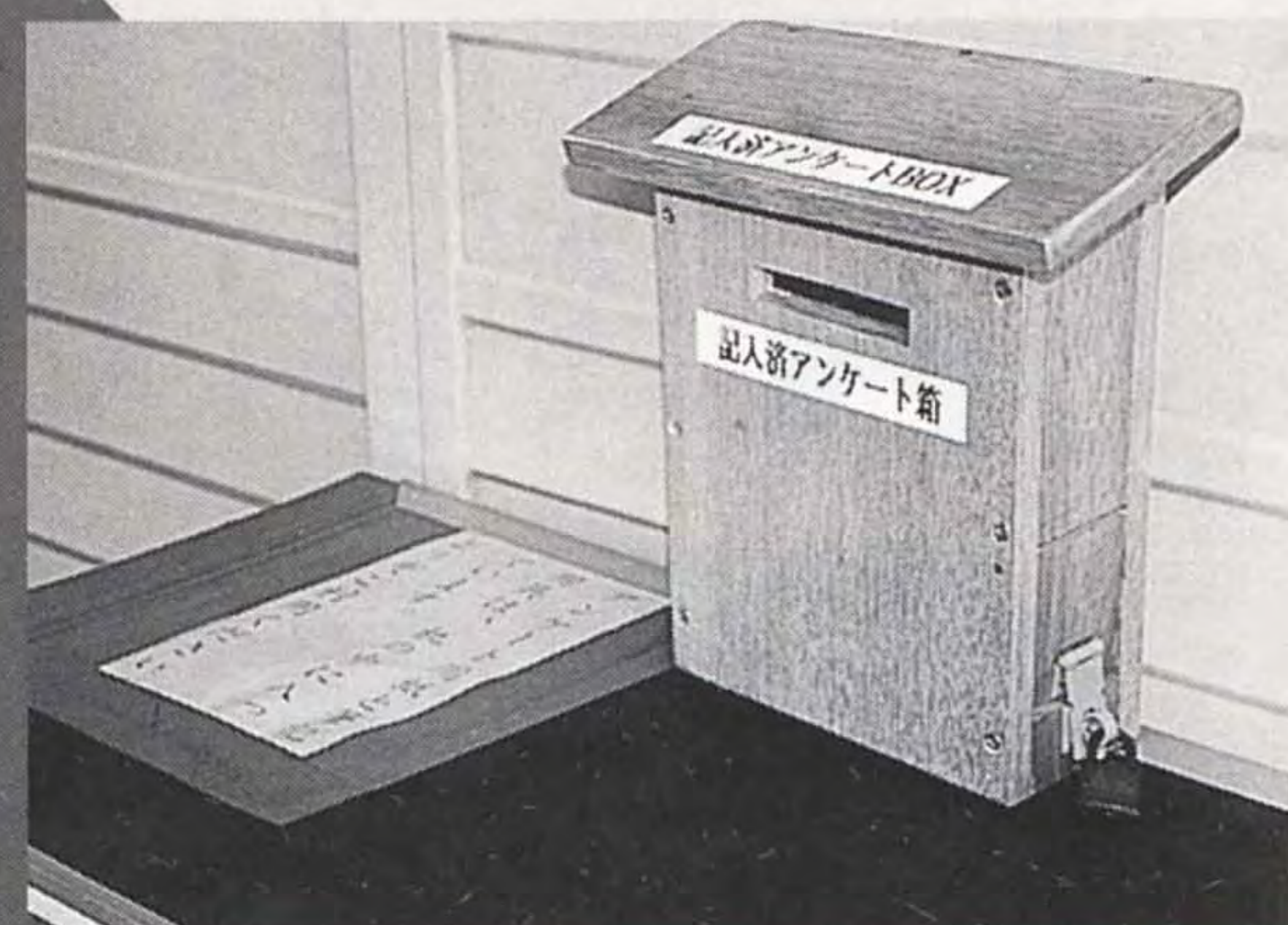
## 「よろしくおねがいします」

昨年九月より法務に所属している嶋田秀光上人です。ご本人より一言。「期待に添えるようがんばります☆」



読経する嶋田上人。

◆墓地入口にアンケート箱を設置いたしました。お寺に対するご意見やご要望がございましたら、お気軽にご記入下さい。





# 春

## 彼岸会法要

三月二十一日(木)  
 午後一時～ 彼岸寄席  
 午後二時～ 彼岸会大法要  
 梅窓院本堂にて

# ご先祖さまと……

### 春のお彼岸

間もなく春のお彼岸を迎えます。  
 今年は三月十八日から二十四日までの七日間です。  
 「暑さ寒さも彼岸まで」といわれるように、  
 お彼岸は寒さも緩み春の気配を感じる季節です。  
 うららかな日和に、ご家族皆さままでお参り下さい。

### 彼岸塔婆お申し込み方法

同封のハガキを使い、三月十一日(月)必着でお申し込み下さい。  
 塔婆回向料は一本七千円とさせていただきます。

### お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、もしくは当院の受け付けまで直接お持ち下さい。

※振込用紙は郵便局専用です。銀行では使用出来ませんのでご注意ください。

### 春彼岸寄席

落語 入船亭扇好師匠

入船亭扇里さん

※入場無料。

ぜひ、お立ち寄り下さい。

「プロフィール」

入船亭扇好師匠

S 38年長野県生まれ。S 60年入船亭扇橋師匠に入門。

H 1年二ツ目昇進。二代目扇好を襲名。H 10年真打に昇進。現在に至る。

H 6、8年までNHKおはよう日本の『亭主の朝食』のリポーターを務める。その他、TBSラジオ、NHK衛星放送などにも出演し、古典落語を中心として活躍している。

入船亭扇好師匠



入船亭扇里さん



◆お檀家様へのごお願い◆  
 三月十八日から二十四日までの彼岸期間中、お参りの方が大勢いらっしゃると思いますので、電車等をご利用ください。駐車場はありませんので、予めご了承ください。



今月は檀家の さん

ご夫婦にご登場いただいた。お寺の行事が楽しめという「お寺大好き」のお二人だ。

私たちは生涯現役をモットーに、新しい発見や出会いに感動を求めて頑張っています。

夫妻

インタビューは梅窓院で行われ、仲睦まじいお二人の話は弾んだ。

梅窓院檀家

平成十三年の団参、中国浄土教の発祥地、香積寺にて。

「誤解されると困るのですが、仏教を趣味と捉えてみると、とても奥行きが深くて、しかも多くの出会いがあつて、その素晴らしさに驚くばかりです。」

さんはインタビューにあたりこう答えてくれた。確かに「仏教が趣味」と言うとなにやら怒られそうだが、ちよつと視点を変えてみると、なかなか的を得た捉え方かもしれない。

「お寺というと何となく敷居の高さを感じる方もいるかもしれませんが、そんなことはありません。むしろ一般的な教室にはない魅力がたくさんありますよ。」

肩を張らずにお寺の良さを自然に知ろう、というのが流というわけだ。念仏や法話にしても、いかに生きていくかのためのもの、彼岸やお盆はもちろん、各種仏教行事も日常生活の中に溶け込んでいる、というのも頷ける。

実はこの『青山』の編集をしている青山文化村も文化活動に関わる部署ということからの命名で、お寺は地域のまさに文化のセンタースポットであるべきものだ。

さて、さんが参加されている梅窓院の行事をあげてみると、旅行（団体参拝）、歌（詠唱）、踊り（盆おどり）に

講演会（仏教講座）とさまざままだ。

確かに趣味と分野が重なっている。さらに、そこでの出会いがまた楽しみだという。

さんは長い百貨店勤務という仕事から、多くの人達に接してきている。しかし、お寺の行事でお会いする人達はまたひと味違うという。

「母にお寺や先祖を大事にするように言われていますが、仕事から離れてみて、お寺のありがたみや信仰の大切さを、普段の生活の視線で感じられるようになった気がします。」

お寺の行事を夫婦で本当に楽しみにしています。お元気なお二人は都合さえつけばお寺の行事に積極的に参加され、今や大のお寺ファン？になられたようだ。

さて、お檀家である家のお墓はもちろんだが、母方の家のお墓も梅窓院にある。そしてこの家のご先祖は奇しくも梅窓院と縁があり、江戸時代の青山名物と詠われた「梅窓院の観音様」となる名物、「お授け団子」の創業者である。さんが持

参してくれた明治から大正にかけて発行されていた東京の地方紙、『毎夕新聞』にそのいきさつが連載されていた。

また、さんの父方のご先祖には『真田三代記』で有名

な真田幸村の長女が嫁いでいる。家はその後本陣となり、今も長野県に史跡石合家住宅として残っている。

こうした、両家の血筋を引いているお孫さんがいま、おじいちゃんとおばあちゃんを喜ばせている。

新調した仏壇にお孫さんが手を合わせ、「ナムナム」と称える。これを見るのが一番の楽しみだという。

そして、「ナムナム」のあとには、おばあちゃんが子供えしておくお菓子に手が伸びる。微笑ましい光景だが、

さん夫妻の生活は、いまや信仰を中心にまわっている。

長野県長門町長久保宿に残るかつて本陣だった家住宅。町の指定文化財になっている。



# 江戸三十三観音 札所めぐり

第三回



浅草から目黒まで、ぐるり東京一周  
江戸観音札所巡りの旅。  
シリーズ第三弾では、  
湯島〜本駒込方面を訪ねます。

実はこの辺り、  
観音札所のお寺が集まっている地域。  
次回訪ねる十番十一番、そして二十三番も  
とても近い所にあるのです。  
お時間のある方はちよつと  
足を伸ばしてみるのもいかがでしょうか。

## 第七番

柳井堂 心城院  
札所本尊 十一面観世音菩薩



湯島天神の男坂下にある心城院は、元禄七年の開基以来、火災などを遭う事なく当時の姿を今に残しています。  
柳井堂の名称は、境内にある江戸名水「柳の井」に由来します。この水を一滴頭に戴けば、女性の髪がほぐれるが如く振りかかる疫災を流し、七難即滅・七福即生のご利益があると伝えられています。  
また元禄の昔から、病氣平癒などの祈願の為、亀が放されていた事から「亀の子寺」としても親しまれています。



千代田線・湯島駅三番出口から二分/JR御徒町駅から徒歩五分

札所巡りこぼれ話

ご朱印について

札所巡りを終えた方に、こんな話を聞きました。  
朱印帳を一冊持って夫婦で回っていると、ある札所の住職に、「ご朱印とはお経を自分で書写し、納めることでもらえるもの。一人一冊持って回ったらいかがですか」と、教えて頂いたそうです。そこでご夫婦はもう一度回り直したそうです。「お経を納めた証」という習慣は省略されるようになりましたが、これからご夫婦で札所めぐりを始めようと思っいる方は、各自の朱印帳を用意されることをお勧めします。

## 第八番

東梅山花陽院 清林寺  
札所本尊 観世音菩薩



南北線・本駒込駅一番出口から徒歩三分/都営三田線・白山駅から徒歩十分

## 第九番

東光山 定泉寺  
札所本尊 十一面観世音菩薩



南北線・本駒込駅二番出口の正面

団子坂通りに建ち並ぶ寺院の一つに清林寺があります。室町中期の開創。当時の観音様は焼失してしまいました。江戸時代に復興され、今日に至っています。  
開基以来、お十夜会の仏事が盛んで、現在でも毎年十月に行われています。また講演会等も積極的に行われ、広く開かれたお寺として親しまれています。

第三一番	第二八番	第二五番	第二二番	第十九番	第十六番	第十三番	第十番
未	未	未	未	未	未	未	未
第三二番	第二九番	第二六番	第二三番	第二十番	第十七番	第十四番	第十一番
未	未	未	未	未	未	未	未
第三三番	第三十番	第二七番	第二四番	第二一番	第十八番	第十五番	第十二番
未	未	未	未	未	未	未	未

第九番  
定泉寺

第八番  
清林寺

第七番  
心城院

江戸三十三観音御朱印

◆読者の広場◆  
浄土宗と浄土真宗とはどう違うのですか。  
(港区 Sさん)

真宗の字が示すが如く、親鸞聖人は法然上人を信奉し、教えを忠実に受け継いだものであったが、弟子の受け取り方のずれから、両宗の特色が生じた。共に念仏を称えるが、真宗では「ナムンダブ」、浄土宗では「ナムアマミダブ(ツ)」と発音する。真宗の念仏は、阿弥陀仏への「感謝」(サンキユ)を意とし、浄土宗の念仏は願往生の「願い」(プリーズ)の念仏である。また、阿弥陀仏の後背も浄土宗の船形に対し、真宗では筋後光である。その他、真宗の不向義により①塔婆供養をしない②施餓鬼会を行わない③お盆の精霊棚を作らない等、相違が見られるが、それは何事も阿弥陀仏のお力によるはからいと信じる、真宗の絶対他力の姿勢を強く表した為が生じたものである。  
(葉山)

※仏事に関するご意見ご質問、お待ちしております。  
〒107-0062  
港区南青山二二六二三八  
梅窓院 青山文化村 宛



# 食は命なり

第六回

武鈴子

春野菜は  
めまいの薬

春の彼岸は春分を中日にして前三日後三日の計七日間をいい、供物として彼岸だんごや牡丹餅（ぼた餅・秋はお萩とよぶ）を供えて先祖のお墓参りをしますが、この風習は江戸時代から盛んになり、一八七八年（明治十一年六月）に国の祭日として制定されました。現在は「春分の日」とよばれて国民の祝日になっています。

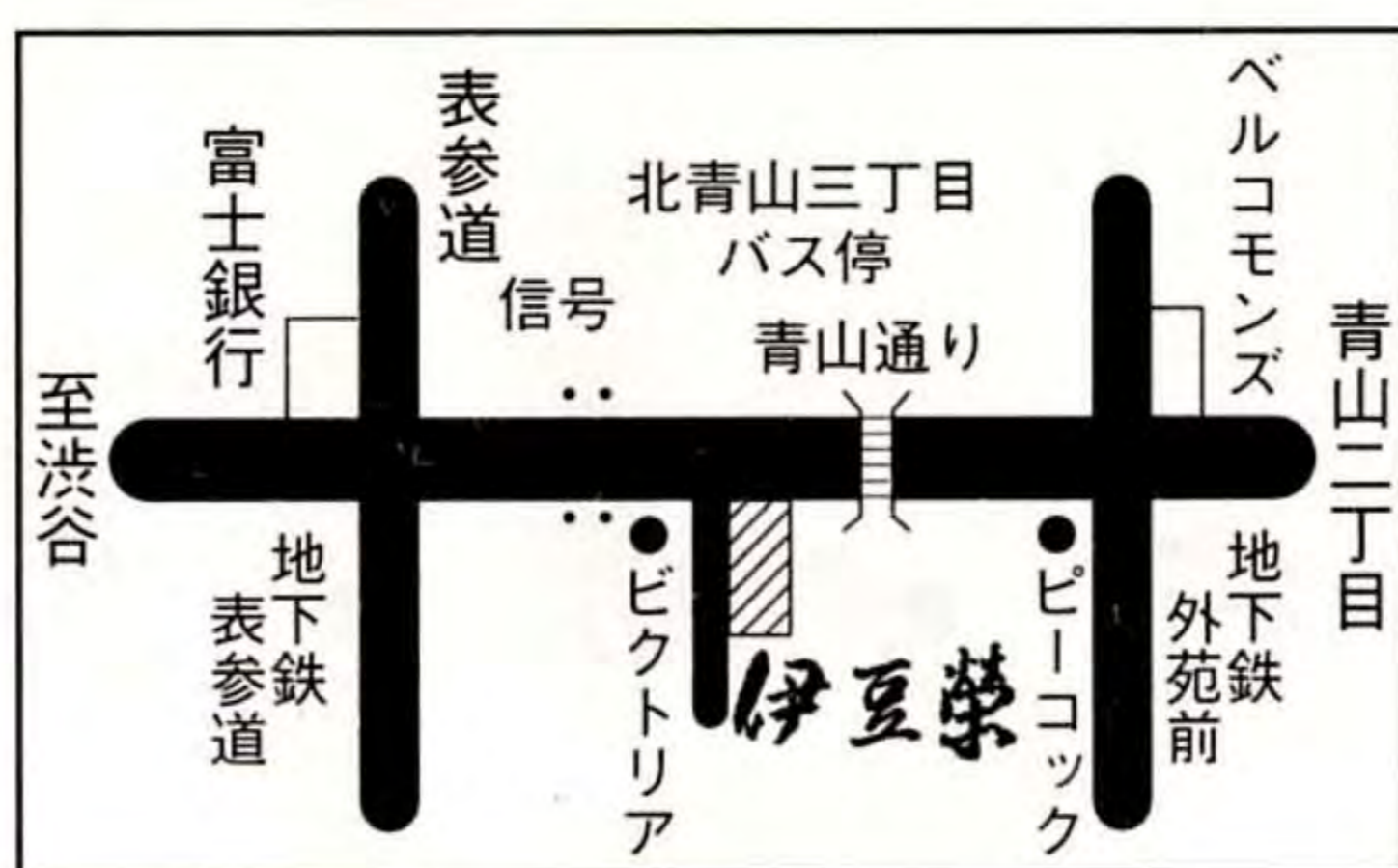
「暑さ寒さも彼岸まで」は、このころから冬の寒さが去って日ごとに春らしくなるからですが、時に“なんとまあ彼岸すぎても夢あられ”の年もあったりします。

季節の変わり目は気候が不安定で、昔からこの時期は体調を崩しやすいといわれていますが、東洋医学では、自然界に陽気が高まり、活気が盛んになる春は、人体の新陳代謝も旺盛になって、とくに肝臓の機能が高ぶり、そのため頭痛、めまい、目の充血、精神不安や不眠などが起きやすいと考えられています。

これらの症状を予防したり改善してくれる食べ物が、春の食事を飾るふきのとうやわらび、ぜんまい、たらの芽、たけのこ、よもぎなどの旬の食材です。いずれもほろ苦さや酸味を秘めていて、体内の炎症を静めたり余分なものを排出する働きがあるため、春先に起こしやすい体のトラブルを防いでくれます。

体も心も活気が高まる春は、ほろ苦味を備えた自然界の旬の食べ物を取ることが大切。旬のものはおいしくて、栄養価が高く、体のリズムを整えて、免疫力を高める「薬」なのです。

TEL 03-3408-2889  
港区南青山3-8-37  
第二宮忠ビルB1  
(梅窓院より徒歩5分)  
平日  
11:30~14:30 (ランチタイム)  
17:00~22:00  
日・祝日  
11:30~21:00  
定休日・土曜日  
※土曜も団体様は予約受付。  
お電話にてご相談下さい。



『うなぎめぐり』では、ほね煎餅・きも焼・ひれ巻・うまぎ・鰻ざく・白焼き・蒲焼きと、うなぎの全てを食べ尽くします。



滝の水音が心地よく響く店内。



おたのしみ弁当(1000円) あじろ汁定食(850円) まくら汁定食(850円) まくら汁定食(950円) 伊豆菜

本物の「和食」にこだわり、青山に店を開いて二十余年。旬の素材を活かし、どこか懐かしく、あったかい味を守り続けているのがこの伊豆菜。池之端伊豆菜の味を受け継ぐ自慢の鰻料理はもちろんのこと、メニューの豊富さには驚かされます。「おすすめはしない。お客様に実際食べてもらってお気に入りを見つけて

## 青山 伊豆菜

青山散歩道

ほしい」と語るご主人からは、料理に対する自信と情熱が感じられます。

純和風の座敷は三十五名様までOK。お値段も懐石風弁当が一六〇〇円からと大変リーズナブル。予算や人数に応じてメニューの変更も可能とのことなので、ぜひご相談を。

ランチタイムの目玉はうなぎ八八〇円。値段は安くとも味の妥協は絶対しないという逸品。ぜひ気軽に昔ながらの和食をご堪能下さい。

## 青山俳壇

選者：『俳句朝日』顧問

大崎紀夫

### 書初め／お年玉

◎特選

心経の一字太く筆始

(評) 年頭の写経。その一字を心静かに、そしてきつぱりと太く書いたのです。凜とした心の姿が読む者に伝わってくる秀句です。

◎佳作

書初めや妻に閑かな刻ありて濃く太く全校児童書初めす  
書初めの父ゆづりなる筆運び二十五の子に祖母よりのお年玉もみぢ手に握りてみたるお年玉めでたくも孫集ふ日のお年玉

◎選者詠

渴筆のほどよき加減筆始

大崎紀夫

へワンポイントアドバイス  
漢字を多く使うと固い俳句になってしまうので、ひらがなのバランスを考えて詠みましょう。

### 投句募集

次回のテーマは「おぼろ」「植木市」とします。四月十日を締切、六月上旬発送の『施餓鬼号』にて発表させて頂きます。住所、氏名、年齢をお書き添えの上、ご応募下さい。お待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38

梅窓院

「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集  
青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、左記の番号までご連絡ください。  
※ウエップ編集室  
電話〇三(五三六八)一八七〇



・ 行 ・ 事 ・ 告 ・ 知 ・



第三回 文化講演会



講師 岡村隆二さん

プラス思考の生き方  
氣の活用

講師 NPO法人・氣の活用コム理事長  
岡村隆二氏

日時 四月六日(土)

開場 午後一時

開演 午後二時

会場 梅窓院 仮本堂

入場無料/全席自由

各分野でご活躍の著名人を招いての文化講演会。三回目を数える今年は、「氣の活用コム」理事長の岡村隆二氏をお迎えします。

今回は、近頃スポーツ界や、企業研修でも注目され話題となっている「氣」についてのお話です。「氣」には私たちが毎日を明るく楽しく過ごすヒントが隠されているとのこと。当日は興味深いお話しが期待されます。皆さまお誘い合わせの上、ぜひご参加下さい。

※「氣の活用.com」ホームページもぜひご覧下さい。

<http://www.kinokatsuyo.com>



観覧ご希望の方は、申込み用紙をご記入の上、三月末日までにお申込み下さい。郵送、FAXでも受付けております。

お問い合わせ 青山文化村

Tel 〇三二四〇四一八五八八

Fax 〇三二四〇四一八一〇七

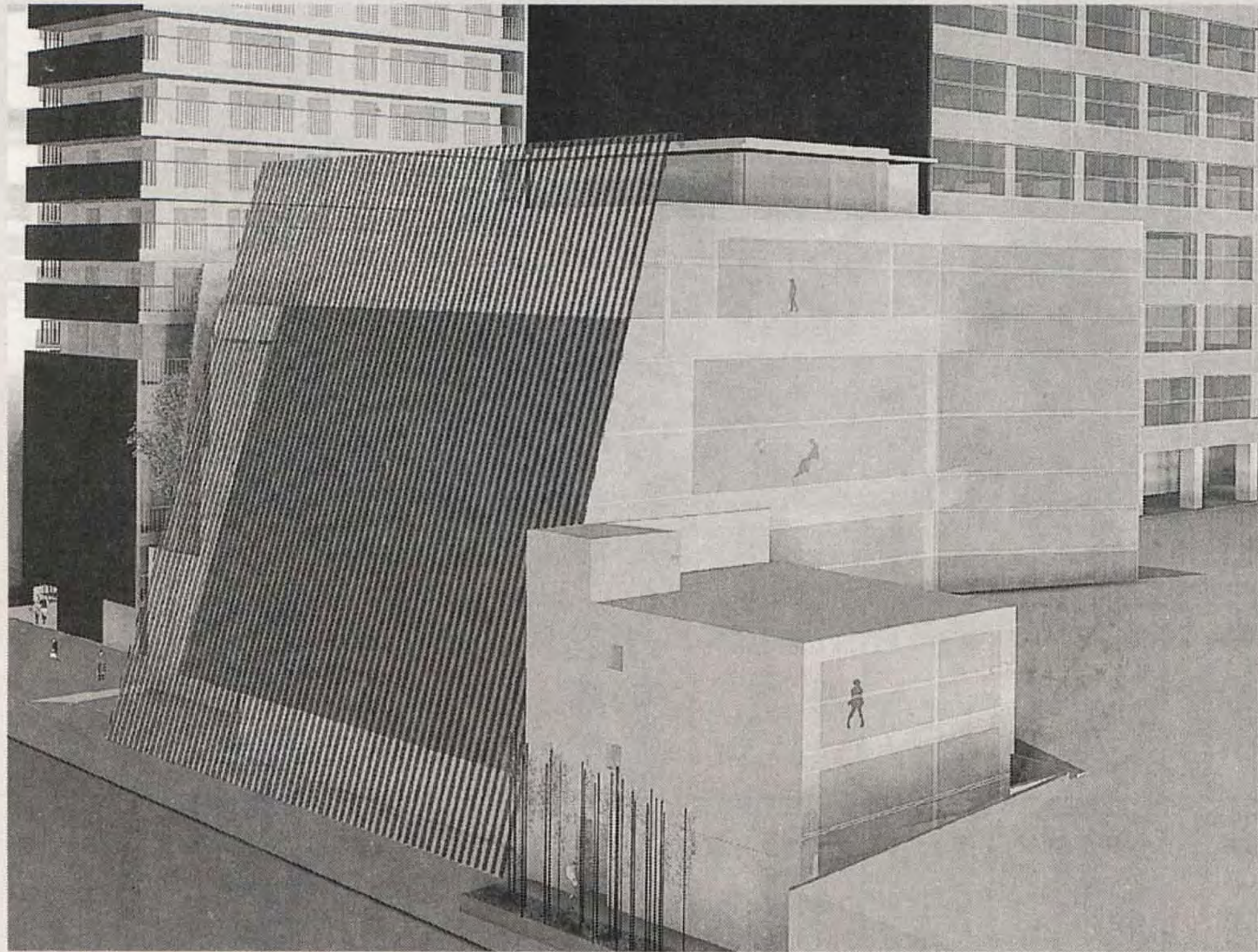
◆復興事業新着情報◆



旧本堂跡地 (二月十五日撮影)

本堂復興事業が着工してから早や半年が過ぎました。平成十五年秋の完成までの間、御檀家の皆様にはご迷惑をおかけしておりますが、ご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成十五年完成予定。寺院棟は四階建て。手前は二階建ての庫裡。本堂左奥には住宅棟、右奥には業務棟が建つ。左手前の道路はボチボチ通り。



完成予想図。



◆来寺される方へのお願い◆

- ・ 工事中の為、只今駐車場はありません。車での来寺はご遠慮下さい。
- ・ 墓地にガラス等の割物を置くのは大変危険ですのでおやめ下さい。